

4年ぶりに蘇る 真鍮寺

庚申山 広徳寺
こうしんさん こうとくじ

甲賀の里にそびえたつ真鍮寺

かつて甲賀忍者たちが、隠れ住んだ忍びの里、滋賀県甲賀市。重畳と山が連なるこの町に“真鍮寺”と呼ばれる寺がある、その名は庚申山 広徳寺。この広徳寺が真鍮寺と言われる所以は、藤左衛門という1人の農民にあった。庚申山のふもとに住んでいた貧しい農民の藤左衛門は、生活が苦しく郷を離れる決心をしたが、広徳寺の本尊を深く信仰しており、文禄2(1593)年の正月に広徳寺にこもり家運の隆盛を祈願した。すると17日の満願の夜、ひとりの童子が忽然と現れ、銅に亜鉛を混ぜる合金の法を伝授されたという。これがわが国における真鍮精錬の始まりと言われているため、広徳寺は真鍮の元祖、“真鍮寺”と呼ばれるようになったのである。しかし、広徳寺の本堂は2013年4月、漏電が原因で焼失してしまった。この本堂を再建しようと立ち上がった人たちの取り組みをご紹介します。船原広照住職、苦難の再建をまとめ上げた市議会議員の田中喜克氏、アドバイザーを務めたi・Netグループ谷村元良氏にお話をうかがった。



船原 広照住職

再建に向けた熱い思いへの恩返し

「焼失してしまった広徳寺の本堂は2代目で、藤左衛門が謝恩のために立て直したとされているものでした。広徳寺は山奥にあるため、消火に必要な水が確保できず全焼。真鍮の元祖として伸銅メーカーをはじめ地元の方々から愛されているお寺なので、本当に無念でした。火災のあとにも台風被害があり、再建に向けた取り組みは難航しましたが、今年の3月末に4年の時を経て、ようやく本堂が蘇りました」と語る船原住職。まずは本堂を再建するための資料が集められ、設計図を作成。屋根飾りの“千鳥破風”は費用の関係で作られなかったものの、焼失前と同じ規模で設計、建築された。屋根も焼失前と同様120m²の一字葺きの銅屋根で、板厚0.4mmの銅板が使用された。

「本堂の再現に加え火災対策には、とくに力を入れました。お寺にはあまりない煙感知器や、銅のより線を使用した避雷針を屋根

に設置し、2度と同じような火災が起きないように、万全の対策を整えています」と谷村氏は語る。「本堂の再建にあたり本当にたくさんの方から支援をいただきました。Webサイトなどのツール

市議会議員
田中 喜克氏i・Netグループ
谷村 元良氏

で広徳寺の情報をタイムリーに発信することで、みなさまに感謝をお伝えしていきたいと思います。また、広徳寺は山奥にあるためアクセスしにくいという問題があります。たくさんの方々に足を運んでもらえるよう、近くを走る信楽高原鉄道の新駅の建設などを進めていきたい」と田中氏。たくさんの方々の熱い思いから再建された広徳寺の銅屋根は、太陽の光を受けて今日もあかがね色に美しく輝いている。



急ピッチで進む屋根工事



難しいとされる屋根の曲面も忠実に再現されている